

2019 年度 事務事業評価(2018年度実施事業事後評価)シート / 2020 年度 実施計画調書 (新規 拡充 縮小 休止・廃止 現状維持)

1 事務事業の基本情報										整理番号	067								
事務事業名	きぬの里促進バス運行経費				補助区分	<input type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県補 <input checked="" type="checkbox"/> 市単	終期	<input type="checkbox"/> 決まっている (年度まで) <input checked="" type="checkbox"/> 決まっていない	予算科目	区分	一般会計	款	08	項	04	目	01	事業	06
担当部	都市建設部	担当課	都市計画課		担当係	計画 係													
位置付けられている計画等	<input type="checkbox"/> じょうそう未来創生プラン前期基本計画 <input type="checkbox"/> 市長マニフェスト「常総創生への道しるべ」 <input type="checkbox"/> 常総市復興計画 <input checked="" type="checkbox"/> 市民等からの要望 <input type="checkbox"/> 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略 <input type="checkbox"/> その他の計画 (名称:)				根拠法令及び市条例等	<input type="checkbox"/> 国の定める法律 (名称:) <input type="checkbox"/> 国・県からの通達等 (名称:) <input checked="" type="checkbox"/> 市の条例・要綱・規則 (名称: 常総市きぬの里地域促進バス利用者負担金徴収条例)													

2 事務事業の目的

当該事業を実施することで、①「望ましい状態」とはどのような状態か? → ②一方で、「現状や課題」はどうか? → ③そのためには何をすべきか? という過程で考えていただいても結構です。

現状課題	本事業は、H13年度から内守谷町きぬの里地区の定住促進を目的として、同地区及びその周辺から絹西小学校に通学する児童を対象に、現在まで地域促進バスとして運行している。しかしながら、当初目的においては一定の成果を挙げながら、貸切バスにおける料金制度の改定を契機にH27年度から本事業費は高騰したが、利用者負担金の見直しはされていない。また、通学路整備が完了し、以前と比較し徒歩通学する環境が整ったことや、児童数が減少傾向にあることなどから、今後の事業方針・利用者の応分負担について検討する必要がある。	誰・何を対象に 地域促進バス利用者。	どのような方法・手順で H30年度より利用者懇談会を開催し、事業費の推移を含むこれまでの事業概要・他地区の現状などを説明したうえでアンケート調査を行っており、利用者から徴収した意見・庁内会議で検討した方向性を踏まえ、引き続き利用者懇談会を開催し、利用者の理解を得ながら今後の事業方針を検討する。	望ましい状態 通学路整備が完了し、以前と比較し徒歩通学する環境が整ったことから、市内他地区における通学形態とのバランスを考慮すべきであるが、利用者負担金の見直しを図ることで、事業費における受益者応分負担率の増加を検討するとともに、児童数の推移をみながら段階的に縮小することを当面の目標とし、今後も懇談会の開催を継続する中で利用者の理解を得ながら長期的な方針を模索していく。
------	--	-----------------------	--	---

3 事務事業の主たる成果指標

数値目標(定量)の設定が困難な場合は、文言目標(定性)でも結構です。なお、指標名・目標値とも設定が困難な事業は空欄でも結構ですが、この場合、設定できない理由を分かりやすく・具体的に記入してください。

指標名	利用者負担金の応分負担率	単位	%	目標値	20	目標年次	2021	年度	指標及び目標値設定の考え方(又は指標・目標値を設定できない場合の理由)	応分負担の観点から、現在1割強である利用者負担金の割合を、向こう3年間で2割まで引き上げ、その後は全体事業費と利用者数の推移状況を鑑み、段階的に検討するものとする。
-----	--------------	----	---	-----	----	------	------	----	-------------------------------------	--

4 事務事業の実績 ①

当該事業の予算を使って、『どのような業務をどの程度実施したか。』を記入してください。なお、業務が12個以上ある場合、代表的なものを最大12個記入してください。

年度	2016年度				2017年度				2018年度						
	業務名	活動量	業務名	活動量	業務名	活動量	業務名	活動量							
事務事業を構成する主な業務	① 運行業務委託	200日	① 運行業務委託	200日	① 運行業務委託	200日	① 運行業務委託	200日							
	② 添乗員業務委託	200日	② 添乗員業務委託	200日	② 添乗員業務委託	200日	② 添乗員業務委託	200日							
	③ 申込受付・納付書作成事務	304件	③ 申込受付・納付書作成事務	311件	③ 申込受付・納付書作成事務	303件	③ 申込受付・納付書作成事務	303件							
	④ 負担金減免・還付事務	15件	④ 負担金減免・還付事務	15件	④ 負担金減免・還付事務	8件	④ 負担金減免・還付事務	8件							
	⑤ 運行予定表確認事務	12回	⑤ 運行予定表確認事務	12回	⑤ 運行予定表確認事務	12回	⑤ 運行予定表確認事務	12回							
	⑥ 乗降所除草作業	1回	⑥ 新入生保護者説明会	1回	⑥ 新入生保護者説明会	1回	⑥ 新入生保護者説明会	1回							
	⑦ 乗降所借地契約業務	1回	⑦ 乗降所借地契約・返還業務	3回	⑦ 今後の事業方針検討会議の開催	2回	⑦ 今後の事業方針検討会議の開催	2回							
	⑧ 負担金徴収督促業務	2回	⑧ 負担金徴収督促業務	2回	⑧ 今後の事業方針についての利用者懇談会開催	1回	⑧ 今後の事業方針についての利用者懇談会開催	1回							
	⑨		⑨ 乗降所変更に伴う動線シミュレーション	2回	⑨		⑨								
	⑩		⑩ Jアラート発令時の取決め作成	2回	⑩		⑩								
	⑪		⑪ 残土不法投棄の撤去	2回	⑪		⑪								
	⑫		⑫ 今後の事業方針検討会議	4回	⑫		⑫								
目標値に対する実績値		10.27	%	目標値に対する実績値		9.89	%	目標値に対する実績値		12.36	%				
決算額	計	35,368,169 円	内訳	特定財源	3,633,000 円	計	36,706,553 円	内訳	特定財源	3,628,500 円	計	31,975,502 円	内訳	特定財源	3,513,750 円
				一般財源	31,735,169 円				一般財源	33,078,053 円				一般財源	28,461,752 円
		(住民一人あたりの行政コスト)	582 円		(住民一人あたりの行政コスト)	607 円		(住民一人あたりの行政コスト)	533 円						

5 担当者評価 ②

実施したことによる成果や問題点を記入してください。

成果	目標未達成 成果内容 昨年度の成果指標となる「運行に要する確保台数」の削減については、現在、利用者懇談会継続中であるため、変更はない。但し、H31年度より1台小型化を図ることで事業費削減となる見込み。
問題点	今後、事業の大幅な縮小を市の方針とした場合、過去の経緯や子育て環境への不満が鬱積し、利用者の理解を得ることが困難であることが想定される。また、高学年を中心とした徒歩通学の推進を強化していく方針とした場合には、歩道やガードレール未整備地区があるため、早急な対応検討が必要であり、登下校時における総合的な防犯対策の強化については、市内全域に及ぶ今後の課題となる。

6 担当部長及び担当課長評価 ③

担当部長・課長で協議のうえ、評価してください。

事務事業の方向性

拡充 現行どおり 縮小 休止・廃止

評価理由

平成24年4月に発生した関越ツアーバス事故を契機として、平成26年3月、国土交通省は「高速・貸切バスの安全・安心プラン」を改正し、新しい運賃・料金制度に変更されました。この改正により事業費は3.5倍に増加しましたが、事業の趣旨に鑑み利用者負担金は据え置きとなっています。今年度は保護者を対象に「事業方針に関する懇談会」を実施しており、懇談会の経緯を見守り方針を決定したいと思います。

7 実施計画 ④

今後3年間の事業内容について、どのようなことをどの程度実施していくつもりなのか、具体的に記入してください。なお、予算額の「歳出の計」と「歳入の計」は一致させてください。

年度	2019年度				2020年度				2021年度									
	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容														
成果指標	指標名	利用者負担金の応分負担率	単位	%	目標値	20	指標名	利用者負担金の応分負担率	単位	%	目標値	20	指標名	利用者負担金の応分負担率	単位	%	目標値	20
	予算額	歳出	計	32,267 千円	歳出	計	32,467 千円	歳出	計	32,467 千円								
			特定財源	3,400 千円		特定財源	3,600 千円		特定財源	3,600 千円								
	歳入	一般財源	28,867 千円	歳入	一般財源	28,867 千円	歳入	一般財源	28,867 千円									
	計	32,267 千円		計	32,467 千円		計	32,467 千円										

8 財務アドバイザーの見解

『常総市財政健全化計画』では、2017～2019年度までの3年間で約20億円の財源不足が生じる可能性が指摘されている。この厳しい財政状況を鑑み、本事務事業は2020年度の当初予算の要求において、その一般財源金額については費用対効果が最も高いことが期待される2019年度の一般財源予算額の金額以下の予算要求を行うべきである。当該金額の枠内で最大の効果を発揮する、市民目線の筋肉質な事務事業の計画と実行を期待する。

9 行政改革懇談会(市民)の意見

担当部長及び担当課長評価のとおりでよい。
通学距離が長く、縮小に値しないと考える。縮小は、税収面も含めて、住民定着に水を差すことにならないか。ただし、見直しに当たっては、市内の他の地区とのバランスも考慮し、事業方針を検討して行って欲しい。

10 最終評価(行政改革推進本部) ⑤

事務事業の方向性

拡充 現行どおり 縮小 休止・廃止

評価理由

市内の他の地区とのバランスも視野に入れながらも、地元関係者による懇談会において意向の醸成を図り、その後の方針を決定することとし、現行通りとすべき。

11 事務事業の改善理由及び改善部分 ⑥

実施計画のみ作成する場合の拡充・縮小・休止・廃止部分もこの欄に記入してください。

事業内容